国際女性デー　　2023.3.8.

毎日丹念に東京新聞を読んでいる夫に、「今日は何の日？」と尋ねたところ「さあ、分らん」との返事がありました。

かく申す私も、今朝の朝刊の一面を眺め、「女性議員増　民主主義強くする」というヘッドラインの文言にさほどの関心が持てずにおりました。参政権はあっても議会の一員となる女性の数は男性の一割にも及んでいないとのこと。

卵の翁媼雛

最後のページのタイトルは「生きづらさ『人形』に重ねて」とありました。日本では先日、女児の健やかな成長と幸せな結婚を願う「雛祭り」を祝ったばかりで、「人形」になんの違和感も持たない風潮です。でも、新聞紙上では、四人の女性映画監督が、「人形」を共通のモチーフとして短編を制作し、生きづらさを描いているとありました。イプセンの『人形の家』の主人公ノラが自分を「人形」即ち、「物言わぬ愛玩具」であったと悟ったという話は有名ですが、この四人の監督たちは、性差別、性暴力など女性の体験を「人形」と関わらせて制作したとあります。

そのほかにも、新聞では政治、芸術、スポーツ、経済、健康、などの分野で、女性の抱える問題、生きざま、権利、人権を扱った記事が並んでいました。そうです！今日は「国際女性デー」なので、女性のことを特集しているのです。夫には「国際女性デー」という文字は眼に入らなかったようです。かのシーザーが「人は見たいものが見える」と言った通りなのでしょう。

夕刊の一面には、イギリスのエコノミスト誌の調査によれば、「女性の働きやすさランキング」で、先進国を中心とした29ヶ国の中で、日本は7年連続ワースト2位、最下位の韓国の一つ上、28位で、女性が非常に働きにくい国であるとの記事が目を引きました。日本では、政界への参加度、また、企業の要職者の数、給与の格差の点で、他国に大きく後れをとっているとのことでした。

私自身も含め、日本の女性は、社会での地位に関心が薄く、社会のことは男性任せにする傾向があるのです。女性の発言力、力関係は家庭内でしか通用していない、それも、大多数とは言えないような感じがします。それが結局は、新聞によれば、民主主義が弱いままであるという結果になっているということでしょう。つまり、封建制、父権性のウエイトが大きいままなのです。

女性が不平等、不公正に扱われていることに抗議したアメリカの女性労働者のデモから始まり、各地でのデモ行動が徐々に、広がったと聞いています。国連がそれをバックアップして国際女性デーを制定したのは、ごく最近です。ですから知名度は高くありません。けれども男女の不平等、不公正の事実は現に目の前にあり、性暴力に苦しむ女性がいることも事実です。女性自身が意識的、自覚的に問題に取り組み、また支援することが大事でしょう。これは本当に痛みを伴うことであることは私も知っています。女性が人権を求める時、暴力で封じる国があることも知らされています。誰であれ、既得権（？）を失いたくない。でも、傍らで共に生きている女性が苦しんでいることに気が付かず、また指摘されても、それに目を瞑ることは、その人にとって不幸なことです。男と女を等しく作られた神の御旨に反することでもあると、私は思っています。